

令和4年度 学校評価総括表 伊丹市立 伊丹幼稚園ありおか分園

教育目標		心豊かに共に育ち合う子どもを育てる						
重点目標		子どもが心豊かに共に育ち合う保育を推進する。 地域に開かれた幼稚園づくりを推進する。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	きめ細やかで特色のある幼児教育の提供	・創意工夫を活かした教育課程を編成する。 ・幼児理解と教師の保育力の向上を目指した園内研究会を実施する。	・市の教育課程をベースに保育計画をたて、園の子どもの実態を踏まえながら園独自の教育課程を見直す。 ・教師の資質向上のため、講師を招聘し、園内研究会を行い保育を創造していく。 ・コロナ禍においても、オンラインでの研修会やその他の研修会に積極的に参加するようにする。	・伊丹市の教育課程編成をベースとしながら、今年度は園独自の3年保育5歳児の教育課程を学期ごとに編成する。 ・園内研究会を実施し、保育の質の向上を図る。 ・職員が様々な研修会や研究会に参加し、その内容を他の職員と共有し活かす。	B	・教育課程の見直しについては、1～IV期ごとに3年保育5歳児の子どもの実態を捉えながら、伊丹市立幼稚園の教育課程を元に見直すことができた。 ・子どもたちが自分で考え決定して行動できる保育を進めていくために、短期指導計画の中に環境図を取り入れた新しい形式を作成した。 ・講師を招聘した園内研究会を実施したことで、子どもの実態や課題、環境構成について学び合うことができた。 ・職員は様々な研修会や研究会に積極的に参加し、その内容を他の職員と共有し活かすことができた。 ・保護者アンケートで、園の教育目標や毎月の保育のねらいを知らないという回答が少数ではあるがあった。	・伊丹市立幼稚園教育課程編成表が完成するので、それをベースにした子どもの実態を踏まえた自園独自の教育課程を編成していく。 ・短期指導計画の形式の見直しを継続し、教育課程や研究テーマに基づいた形式を探っていく。 ・計画的に園内研究会を行うと共に、様々な研修会に参加して教師の質の向上を目指していく。 ・園の教育目標や毎月の保育のねらいを周知できるように、引き続き発信していく。	・これから3年保育になった結果の成果が出てくると思う。 ・子ども達主体の教育をこれからも推し進めていきたい。 ・小学校教員に幼児教育が深められる手立てがあればよい。できるだけ幼稚園に足をほこび、理解を深める。
	豊かな表現力の育成	・一人一人が、自分で考え決定して行動するための保育や環境構成を工夫する。	・共同研究テーマ『主体性を尊重し、支える保育の創造～自分で考え決定して行動するための環境構成』、研究の仮説、学年ごとの評価指標についての共通理解を、全職員で行う。 ・友達や教師と遊びを楽しんだり、試行錯誤したり、発見、探求したりする姿が見られるような保育や環境構成を行う。	・短期案の中に、研究テーマに沿った子どもの姿や環境構成の工夫について記入する欄を設け、話し合いを行う。(2週に一回) ・実践レポートを2本作成し、検討する。 ・保護者アンケートで、「友達や教師と試行錯誤したり、発見、探求したりする姿が見られるような保育や環境構成を行う。」というアンケート項目において、肯定的な評価が80%以上になる。	B	・保護者アンケートで、「友達や教師と試行錯誤したり、発見、探求したりして遊びを楽しんでいると感じる」というアンケート項目において、肯定的な評価が80%以上になる。 ・共同研究共通の短期案、指導案を作成し、その中で、具体的な子どもの姿を記入することで、子どもの実態だけでなく、具体的な環境の構成もあきらかに、保育に活かす事が出来た。 ・研究テーマに沿ったミニ記録を、3本作成し、あと1本作成予定である。作成しながら、研究の仮説や評価指標、形式などを検討中である。	・引き続き、共同研究テーマを元に、ミニ記録(学期に一回以上)、短期案、指導案を作成し、内容や書き方などを職員間で話し合い、よりよい形式を探っていく。 ・ミニ記録、短期案、指導案を作成する中で、子どもの姿から共同研究テーマに沿った環境の構成を探っていくように、具体的な子どもの姿を記入し、ねらいを明確にし、保育につなげていく。	・園のことを理解して通園しているという結果の表れだと思う。100%に近いこと、また、双方の理解が大きく変わることから、このままがなほっていただきたい。
	特別支援教育の推進・充実	・一人一人の個性を大事にし自分らしく表現できるような、個々の発達段階や課題に応じた適切な指導・援助を行う。	・短期案の話し合いの際に、子どもの様子や課題について話し合い、職員間で情報を共有する。 ・特別支援教育担当者や担任が子どもの実態について捉えて個別指導計画を立て、全職員での共通理解を図る。また、保護者に開示をして、子どもの課題に対して園での取り組みや支援方法を伝え、園と家庭との連携を密にする。 ・特別支援対象児だけでなく、全園児に対し発達課題に応じて関係機関と連携を密にし、集団参加や社会参加において、子どもや保護者にとって効果的な援助や支援方法を考える。 ・子どもの実態や課題に応じて、クラス活動やにじいろ広場に自信をもって参加できるように個別な支援を行う。	・保育後に気になったことを職員間で話題に取り上げ、全職員で子どもの姿や支援方法について共有することができた。また、日々の記録を、個別指導計画に記入しているスモールステップを元に作成する事で、具体的な子どもの姿と支援方法がわかりやすくなり、支援に活かす事が出来た。 ・きぼう園や療育施設と連携を図り、幼稚園と幼稚園外での子どもの様子を共有出来た。そこから、今必要な手立てを考え、保育に活かす事が出来た。 ・わかばこども園でのにじいろ広場に、専門的な遊具を使った経験を深めることができた。	A	・職員間で、個別の配慮が必要な子どもの姿をその都度情報交換し、日々の支援方法について共有することができた。また、日々の記録を、個別指導計画に記入しているスモールステップを元に作成する事で、具体的な子どもの姿と支援方法がわかりやすくなり、支援に活かす事が出来た。 ・きぼう園や療育施設と連携を図り、幼稚園と幼稚園外での子どもの様子を共有出来た。そこから、今必要な手立てを考え、保育に活かす事が出来た。 ・わかばこども園でのにじいろ広場に、専門的な遊具を使った経験を深めることができた。	・今後も全職員で子どもの様子を共有し、継続した支援ができるようにする。 ・保護者との連携を大切にし、個別の指導計画の内容を共通理解しながら保育実践につなげていくようにする。 ・わかばこども園でのにじいろ広場の参加を勧め、自園の保育に活かしていく。 ・研修会に参加し、専門性の向上に努める。 ・引き続き、各専門機関と連携を図り、保育に活かしていく。	・いろいろな子どもがいることで、小さい時から優しい心をもって思いやりやかわりの方法を自然と身につけてくれると思う。これからの人生の中で双方がきっと役に立つことがたくさんあると思う。 ・幼小連携の観点から情報交換を年間通して行っていければ良い。
豊かな心・健やかな体	豊かな心・思いやりの心の育成	・身近な人とのかかわりを通して、自尊心、他者を思いやり心を育む。 ・飼育栽培活動や、自然とかかわる関わる機会を大切に。命の大切さや暮らしていく保育を行う。	・異年齢でのかかわりの機会を日常的に増やす。 ・生活の中で、個々が自分を認めたり他者から認められたりする経験が得られるよう保育を進める。 ・計画的な栽培活動を行い、生命を感じたり、成長する喜びを感じたり味わったりする直接体験をもつ。	・異年齢での活動が増え、かかわりの中で学びが捉えられたか。 ・保護者アンケート「幼稚園は子どもが自分や友だち、周りの人への互いに大切にしようとする姿を大切にしている」の項目で90パーセントの肯定的な回答となる。 ・保護者アンケート「子どもは収穫物に興味関心をもったり、育ったことを喜んでいたりしている」の項目で80パーセントの肯定的な回答となる。	B	・異年齢での自然なかかわりの機会や、合同での保育を通して、子ども達にとって気の合う友だちや年長児に対するあこがれの気持ち、思いやりをもってかかわる姿が増えた。 ・少ない人数の園だからこそ可能な保育のあり方を今後も工夫していく。 ・互いの個性を大切にできた。今後ほかに職員、園児の人権意識を高める。	・今年度取り組み育った子どもの姿を通し、来年度も異年齢でのかかわりがもてる保育を進めていく。 ・自分を認める、他者を認める心豊かな保育の工夫を具体的に取り組んでいく。 ・日々、栽培物の生長にふれ合い、自然の素晴らしさ、命の尊さを体験を通して感じるよう、保育に取り入れる。	・コロナも収まり園児だけではなく、小学校の児童や地域の大人のかかわりも増えてくることと願う。 ・子どもの自主性を伸ばす研修を小幼でできれば良い。
	基本的な生活習慣の確立	・基本的な生活習慣の確立をめざし、自分の体を大切に育てる。	・基本的な生活習慣や健康に関する意識を高めるために、発達に応じた「保健の話」や「健康カレンダー」を実施する。 ・月1回ほけんだよりを発行する。	・月1回の「保健の話」や「けんこうカレンダー」「ほけんだより」の配布を活用し、基本的な生活習慣や健康について意識向上を目指す。	B	・「保健の話」や「けんこうカレンダー」があることで、「ほけんだより」は、定期的に実施し、園と家庭で協働しながら健康活動を進めることができた。 ・保護者アンケート「子どもは、ほけんの話やけんこうカレンダーなどに興味をもち、自分の身体を大切にしようとしている。」が、あてはまらないという回答が少数あった。	・「けんこうカレンダー」があることで、子どものやる気につながっている。 ・健康活動や、自分の身体に関心を持つことが継続するように、子どもに声かけや、保健の話の内容などを掲示していく。	・丁寧に手を洗う姿が見受けられ、押し合うなどなく、足形も有効で並んで洗っていた。
開かれ信頼される学校園	安全・安心な園づくり	・様々な危険に対し、職員、園児共に意識を高める。	・日常ヒヤリハットの伝達・共有・改善を行う。 ・様々な危険事象を想定した職員会議、訓練、振り返り、マニュアル改善を行う。	・毎月行っている安全点検以外の日常的な危険への気づきを共有し、改善する。 ・職員、園児を対象にした訓練を行い、マニュアルの改善が行えたか。	A	・園児の様子から気付いた危険を未然に防ぐ環境の改善ができた。 ・様々な訓練を定期的に行えた。マニュアルの改善を行いながら、臨機応変な対応についても検討しあえた。	・引き続き、日々の気づきからの改善を行う。 ・保護者、地域と連携した訓練を検討する。	・通園時だけでなく、どんな時も注意が必要である。伝え続けていくことが大事だと思う。
	幼稚園情報の発信	・保護者や地域にわかりやすい幼稚園情報の発信を行う。	・園だより、クラスだより、HP、手紙やクラスルームでのよりわかりやすく、身近に感じる情報発信を定期的実施する。 ・新型コロナウイルス感染症対策を行いながらも、実際の子どもたちの様子を見ていただけるよう、人数制限はしながらでも、保護者参観、評議員参観、園見学を行う。	・保護者アンケート「園の情報を園だよりやクラスだより、ホームページ、ホワイトボード等を通じて知っている」の項目で90パーセントの肯定的な回答となる。 ・毎月の園だよりを評議員・評価委員に見ていただく。	A	・できるかぎりのHPの更新に努めた。 ・来年度はクラスルームの活用、今年度から始めた動画配信の活用を行う。 ・保護者、保護者評議員、評価委員の方に感染症対策を行いながら参観したり、子どもたちの様子を知らせていただくことができた。	・情報発信を行う時間の確保が課題である。業務改善をしながら、取り組む方法について、他の就学前施設とも連携しながら、より良い方法を見つけていく。	・園だよりは毎回読ませてもらっていた。丁寧に細部にわたって配慮し、子どもたちを保育している様子が伝わった。 ・これからはHP等による情報発信に努めていきたい。
	子育て支援事業	・子育てについての情報発信を行ったり、子育ての支援活動の場を設けたりする。	・ありこたよりやクラスだよりの発行、保育のドキュメンテーション・写真掲示を通して、心身の発達や、遊びから学ぶ子どもの姿を保護者や地域と共有する。 ・子育ての悩みや喜びをれんらくちょうや懇談、直接の話し等を通して保護者と共有する。 ・感染症対策を行いながら、保護者の親睦を深めるPTA活動やあいさつ運動、園芸ボランティア等を進め、保護者同士のつながりができたり、子育ての相談をしあったりする機会となるようにする。	・保護者アンケート「幼稚園を子育て支援の場として活用している」の項目で90パーセントの肯定的な回答となる。 ・保育のドキュメンテーション、来園時に見ることができ写真掲示を昨年度より増やす。 ・PTAと連携し可能なことを進め、保護者同士のつながりをもつ機会をもつ。	A	・写真掲示を増やし、より具体的に子どもの様子、子ども達の遊びを通して心身の学びがわかりやすい工夫ができた。来年度は動画配信の活用を含め、再検討していく必要がある。 ・PTA役員と連携を行い、親睦、研修園芸ボランティア、あいさつ運動を行い、保護者同士がつながる機会が持てた。来年度は子どもや保護者の実態に応じて工夫を行っていく。	・今年度行った写真掲示と始まった動画配信の活用方法について検討が必要である。 ・情報発信を行う時間の確保が課題である。業務改善をしながら、取り組む方法について、他の就学前施設とも連携しながら、より良い方法を見つけていく。	・子ども達の園での様子やパネルでの写真やたよりを通じてよくわかるように工夫されている。 ・園児が降園した後にしなければならぬ作業や準備もあると思う。 ・園だよりを通して保護者へ発信していく。

学校関係者評価総括
 ・月別であったり、季節であったり、行事に合わせた環境整備はよくされていると思う。いろいろな子ども、それぞれ個性をもった子ども達が同じ保育室で過ごすことにより自然と身につくことは机上で学ぶ以上の成果があると思う。
 ・幼稚園はここに”必要”と引き続きアピールしていくことが大事。
 ・小学校との行事で交流ができればと思う。

次年度に向けた重点的な改善点
 ・人数が少ないからこそできる学年混合の生活や、縦割り保育、合同保育等ありおかならでの保育を推進していくことで、個に応じた支援、集団としての育ちの場、職員同士の学び合いなどにつなげる。
 ・引き続き、考え主体的に過ごす子どもの育成、特別支援教育、安全な園生活の為の危機管理体制の整備に努める。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った